大分県人権　ニュース

じんけん

JINKEN
第145号
（通巻 272号）
2022年5月2日発行

INDEX

特集１　新規事業のご案内
部落問題学習実践講座の開催について …… 4

特集２　シリーズ2022
夜明け前の道を進む　～その1～ …… 8

（公社）大分県人権・部落差別解消教育研究協議会
学校教育と社会教育をつなげて進める
「人権のまちづくり」をめざして …… 2

刊行物の紹介 …… 5

こどものまなざし …… 6
「差別について」竹田市　吉岡　愛さん

会員の募集について …… 10

賛助会員の募集について …… 11

INFORMATION …… 12
ホームページへようこそ

公益社団法人
大分県人権・部落差別解消教育研究協議会

大分県大分市大字下郡496-38 大分県教育会館内
TEL: 097-556-1012　FAX: 097-556-0864
URL　http://kjkoita.jp
E-mail　hello@kjkoita.jp

◀大分県人権の
ホームページは
こちら

印刷　小野高速印刷㈱

（公社）大分県人権・部落差別解消教育研究協議会

学校教育と社会教育をつなげて進める「人権のまちづくり」をめざして

今年度は、日本で初めての人権宣言だったと言われる「水平社宣言」から100年後の記念すべき年です。しかし、日本には今なお部落差別をはじめとするさまざまな差別が現存し、近年では新型コロナウイルス感染症、ロシアのウクライナ侵攻などに起因する人権侵害も生まれています。これまでの確かな実践をもとに切り拓いてきた子どもたちの未来を、今後も多くの会員と共により確かなものにしていく取り組みを創造していきます。

私たち県人教事務局も、各地区で人権教育を基盤とした支援体制づくりに尽力される皆さんとともに進むため、私たちにできることを模索しながら事業づくりをしていきたいと考えています。今年度も、昨年以上に学校教育と社会教育を繋げて進める「人権のまちづくり」をテーマに、会員の皆さんのたくさんの願いや意見をうかがいながら進んでいきたいと思っています。

各地区代表者研修会

義務制16研究会、高校８研究会とともに18市町村の社会教育担当者と県人教事務局がつながって、１年間の研究体制や事業計画を協議していく場です。

昨年はオンライン開催への移行措置により、全ての研修会を保障できました。しかし、参加者どうしの意見交流ができないままの１年間でしたので、一人ひとりの思いを伝えられるような場の工夫に取り組みます。

全ての研究会をつなぐ県内全体の取り組みについても協議していきます。また、最近は市町村ごとの状況差が非常に大きくなってきています。市町村ごとの取り組みを共有することで、それぞれ固有の課題の解決の手がかりとなるような会になるようにしています。

①４月21日（木）　13：30～15：30
②９月８日（木）　13：30～16：30
③２月16日（木）　13：30～16：30

部落問題学習実践講座

実践を綴ることを中心に研修を進めた「スキルアップ学習会」を、フィールドワーク等をとおして部落差別の実態を学びながら、学校教育の中での部落問題学習の推進を模索する「部落問題学習実践講座」に切り替えました。参加対象者に加えて、多くの参加希望者が予想される学習会です。全ての参加者とともに課題を共有し、日々の実践に繋げていきます。

今年度も、参加者自身が抱く実践の課題を、実践交流・レポート討議・フィールドワーク・懇談会をとおして解決していけるように準備を進めています。

①6月30日(木)	②10月13日(木)	③11月10日(木)	④1月26日(木)
10：00 ～ 16：00	13：30 ～ 16：30	10：00 ～ 16：00	13：30 ～ 16：30
学習会＋OP講座	学習会のみ	フィールドワークと懇談会	レポート研修

進路・学力保障学習会

子どもたちの確かな未来をきりひらくための学習会を年３回開催しています。各地区研究会の協力で進められている進路調査や就学支援状況調査などの分析と、町ごとの課題の共有から、課題解決の実践のあり方を協議しています。

また、大分県内外の進路・学力保障の情報も共有していますので、各地区研究会からは進路・学力保障担当者が参加しています。参加を希望する会員にも対応していますので、参加希望があれば事前に県人教事務局までご連絡ください。

①4月28日(木)	②11月17日(木)	③2月2日(木)
13：30 ～ 16：30	13：30 ～ 16：30	10：00 ～ 16：00
学習会のみ	レポート研修	学習会＋OP講座

オープン講座

会員のみなさまをはじめとして、県民全員を対象とした講演会を開催しています。年間７回の開催ですが、そのうち３回は各地区研究会や担当者からの開催希望を募集し、希望地域があれば講演会の出前をしています。希望が出ない場合は、通常のオープン講座にかえて開催しています。

第１回は、熊本県から森山資典さんを招いて、部落問題との関わり方をご自身のこれまでの出会いとともに話していただきます。参加者一人ひとりの生き様に問いかける学習の場としていきたいと考えています。

①6月30日(木)	②8月4日(木)	③8月4日(木)	④2月2日(木)
14：00 ～ 16：00	10：00 ～ 12：00	13：30 ～ 15：30	14：00 ～ 16：00

新規事業のご案内

部落問題学習実践講座の開催について

1．主　　旨

昨今、教職員の部落問題認識を問う意識調査が実施され、結果が県内外で公表されています。それから言えることは、若年層ほど、部落問題認識があまり高くないということです。部落差別解消推進法の第５条には教育・啓発に努めることが明記されていますが、差別の再生産にならないように創意工夫が必要になります。いろいろな立場の方と意見・実践交流しながら、部落問題認識を高め、教育実践していくための研修にしていきます。

2．この研修の参加対象

部落問題学習や部落差別解消に向けた講座を実施する・しようとする方を対象にしています。具体的には各地区の教育内容に関わる方、クラスで部落問題学習する方、社会教育現場で部落問題研修・啓発に関わる方です。

できるだけ、４回の研修を通して参加してほしいと思っています。

3．研修内容

①部落問題学習や研修を企画・実践するにあたり何を配慮すべきか
②伝える内容が今の部落問題とどうつながるのか
③実践者含めて個人、集団、地域の実践課題の認知と課題克服につながるか等についての提案とグループ協議
④フィールドワークと当事者の方との懇談
⑤各自の実践レポートを通しての研修

4．日　　程

今年度は①６月30日（木）、②10月13日（木）、③11月10日（木）、④１月26日（木）の４日間の開催を予定しています。なお、①の研修後には、オープン講座を開催し、部落問題学習実践者として熊本から森山資典さん（熊本県人教会長）の講演を予定しています。③はフィールドワークと懇談を予定しています。また、４回目には参加者のレポートを出してもらい、小グループで協議、実践交流を計画しています。

5．４回目のレポートの提出について

締め切りを**１月19日（木）**とします。

レポート提出先（担当は足立・時枝）　　kenkyu2@kjkoita.jp

刊行物の紹介

大分県人教では、研修会や学習会を通してさまざまな資料をお届けし、その資料をもとにして連携した研究を進めています。そのような中、冊子の形で発刊している３つの刊行物があります。それぞれ、「就学支援パンフ」「人権作文集」「進路本」と呼ばれるものですが、「今回もつかわせてもらったよ」という声もあれば、「なかなか見たことがないよ」と言われる方もいらっしゃいます。配布前に簡単に紹介します。

知っていますか？就学支援のための制度2022

大分県内の就学支援の状況について、市町村の情報も更新しながら編集しています。今年度は、特に高校進学時にどれくらいのお金が必要なのかを、県内の各高校の協力の下にデータ化することができました。前回の調査は2016年でしたので、さらに新しい状況をお伝えすることができました。

こちらは、県内の小学校６年生と中学３年生の保護者、そして中学校２・３年生の子どもたちに無償配付しています。また、県及び市町村の相談窓口にも配置してもらえるようにお願いしています。

2022年度人権作文集「ひかり」第34集

各地区研究会や解放子ども会に協力いただきながら、県内の子どもたちの人権作文を募集しています。たくさんの応募作品の中から20作をこえる作品を選定し、「自分・家族」「なかま」「くらし・生きる」「差別・偏見」の４つの観点に分けて紹介しています。

県内の学校に３冊ずつとともに、連携している隣保館等に無償配付しています。特に会員の皆さんとともに考えていきたい子どもたちの願いや困りを、県人教ニュース「じんけん」の「こどものまなざし」コーナーに掲載しています。

子どもたちに確かな未来を
大分の進路保障・人権教育実践資料集2022

義務制や高校への８つの調査をもとに、子どもたちがどのような進路を保障されているのか、また保障するためにはどのような課題があるのかを分析したものを公開しています。あわせて、県内各地で取り組まれている実践を紹介しながら、学級通信や啓発資料にそのまま使えるプリント資料も掲載しています。

例年、年度末に各地区研究会や社会教育担当者に購入希望をとって、次年度５月の大分県人教総会でお渡しするようにしています。価格は2,000円に改訂しました。追加購入も随時受け付けています。

こどものまなざし

このコーナーでは、今年度の人権作文集「ひかり」に掲載された作品を紹介していきます。子どもたちが日常の生活の中で考えたこと、感じたことなどにふれ、子どもたちの姿から学んでいきたいと思います。

「差別について」

2020年は新型コロナウイルスが大流行した年でした。私の母は、大阪で仕事をしていました。大阪は、とても感染者が多く、緊急事態宣言も他の県よりも早く出されていました。母は大阪市内の保育園で働いていました。母の保育園でも、感染が広がらないように、保育園の中ではたくさんの対策をしていたようです。

私は母と離れて大分で暮らしていました。母から話を聞きながら、大阪での生活はとても大変だと感じ、心配して過ごしていました。あるとき、近所の人から、「お母さんは、コロナにかかったんでしょう。」というううわさのようなおたずねをされました。母は、コロナに感染していないのに、まるで感染したかのように言われて、ショックで私の心は傷つきました。うわさで傷つく思いをする人がいなくなる社会がつくられたらいいな、と強く思いました。

そのとき、私は、これまでの自分の言動をふり返りました。自分をふり返ったときに、うわさを信じて、そのうわさで友だちと会話をすることはなかったかな、と心配になりました。もし、うわさばなしを聞いたとしても、そのうわさを信じてうのみにするのではなく、自分で見たもの聞いたものを信じる強い心をもちたいです。

全国のコロナ感染者数が毎日報道されているけれど、感染者数が多い都道府県から、感染者数の少ない都道府県に必要な移動をしたときに、感染者数の少ない都道府県の人たちはすごくいやな言葉を口にすることが多いということも知りました。私は、そんな言葉を聞いて、とても悲しいです。けれど、私も、母が大阪で働いているので、母が用事で大分に帰ってきたときには、近所の人や、学校の友だちに内緒にしたい気持ちでした。私自身にも、悪気はなくても、偏見の思いがこみあげてきました。そんな風に思う私は、他の人に「お母さん、大阪から帰ってきたの。」といやがられるのではないかと思い、内緒にします。でも、よく考えたら、そんな思いで内緒にしているということは、私もコロナに感染した人を特別視しているのと同じではないかと思いました。そういう気持ちが差別を生むのではないかと気づきました。そういうことからひとつずつ、強い心をもっていかねばなりません。

今年の七月から開催されたオリンピックを見て気づいたことがあります。開会式において、さまざまな国、人種の人たちの行進を見ました。今、世界では、人種差別の撲滅運動が強化されているけれど、去年、白人の警察官が黒人に暴行して、死亡させてしまうという事件が

あったとニュースで知りました。それらを見るかぎり、まだまだ差別は続いているんだなと感じました。オリンピックでは、どこの国の人も皆、同じ人間どうし、尊重しあえているのに、どうして肌の色や目の色・国籍で差別するのだろう。アメリカでの差別のニュースは、とても小さく、なさけないものだと感じてしまいました。

私は、目の色や肌の色・国籍で差別することなく、相手を尊重する気持ちで接していきたいと思います。そして、いろいろな差別を見たり、感じたりしたときは、注意できる人間になりたいです。そして、私自身差別しないようにしていきたいです。

今、私が生きているこの社会は、どのような社会だろうか。新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行して、緊急事態宣言やまんえん防止措置等も、たくさん出されています。「自粛していない。」という理由で責められたり、やむをえない用事で県外に行ってもひどいことを言われたり、差別されたり、ひどいコロナ差別をされた人は、一生心に傷を負います。そんな社会はもういやです。私が大人になっているころには、差別などなく、世界中の人に、みんなが笑顔で明るい未来になってほしいと思います。私も、社会をつくる一員として、強い心をもってがんばります。

人権作文集ひかり2022【第34集】（5月発刊予定）
竹田市　中学校　三年　吉岡　愛さんの作品より

近所の人からのうわさのようなおたずねで、吉岡さんはショックを受けました。大阪から帰ってきたお母さんのことを内緒にしたい気持ちになったのも仕方がないように思います。しかし、そのことが新型コロナウイルスに感染した人を「私も」特別視しているのと同じではないか、と自分自身を見つめています。そして、自分のそんな気持ちが差別を生むのではないかと、考えを深めました。そんなところから、作者の吉岡さんは、他者のことを想像し、自分の心を見つめなおす、しなやかな心をもっていることを感じます。

吉岡さんが差別をなくしていく一人になりたいと思っているのは、自分自身が差別をしていたことに気がついたからかもしれません。

この文章には、「強い心」という言葉が３回出てきます。吉岡さんの言葉には力強さを感じます。しかし「強い心」でなくても、吉岡さんのような、しなやかな心があれば、差別はなくしていけるのではないか…、そんな思いになりました。

今年も、５月に発行する人権作文集「ひかり2022」に掲載している作文を、ニュースを読んでいただいているみなさんに届けていきたいと思っています。「このコーナーや『ひかり2022』を使って授業をしてみたよ」とか、「まわりのなかまと話題にして話したよ」ということがありましたら、是非県人教事務局まで様子をお知らせください。

シリーズ2022

夜明け前の道を進む ～その１～

今現在、様々な発達障害があり、また発達障害と認められていないものの、苦しみながら、または周りから浮きながら登校している子どもも少なくありません。

そのような思いや苦しさに、学校現場は応えられているのでしょうか。当時の部落差別の実態に直面した教師のように、苦悩と努力の果てにいくつかの輝く未来を保障できた場合もありましたが、どうしてもマンパワー頼みで子どもや保護者と向き合い続けている方もいらっしゃるようです。

「向き合い方が分からない…」
「国からの明確な指示（支援方針）がない…」

そのようなことを諦めの理由とせずに、夜明け前の道を子どもとともに進もうとされる方がたくさんいます。みなさんと同じように夜明け前の道を進もうとしている、またはすでに進み始めている人がいるということを、県内のみなさんに届けられるような特集を始めます。

不登校の子どもたちがともに学べる学校とは…

それは、他に類を見ない取り組みでした。自校の子どもたちの中にいた不登校の子どもたちに対して、「学びの場をどうすれば保障できるか」という議論の中で生まれた不登校の子どもたちだけのクラス。今から23年前に、大分高校は『**適応指導コース**（現在の名称）』を立ち上げました。

当時はまだ不登校の子どもたちのことを、登校拒否（「登校することを拒否している」ともとりかねない呼称）と呼んでいた時代です。県内のどの学校でも、どのように向き合い、支援して良いのかも分からない黎明期に、そのかかわり方を模索しながら、大分高校の『**適応指導コース**』は始まりました。『**Ｊ（JOY＝喜び）クラス**』と名付けられたこのクラスに、県内の多くの子どもたちが集まりました。当時は『**Ｊクラス**』の存在に対して、様々な意見が県内外にありましたが、今でも多くの卒業生が『**Ｊクラス**』の職員室を訪ねてくる様子から、子どもたちにとっての人生の中の大きな居場所があることが伝わってきます。

立ち上げ時の校長先生だった小山康直さんは、「子どもたちは一人ひとり違う。その支援や教育が一人ひとり違って当然ではないでしょうか。」と、当時の大分高校に通う子どもたちと支援に当たる教職員の姿を思い浮かべながら話されていました。

「私にとってのＪ」＜卒業生の思い＞

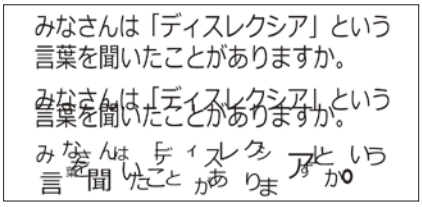
中学3年生の秋、親のすすめもありＪ組を見学に行きました。小学4年生から不登校だった私にとって「学校は普通の人がいくところ。自分は問題児だからきっと無理だ」と、とても憂鬱だったことを覚えています。

見学が終わり、担当の先生から「このクラスに特別を期待しないでください」「僕は、普通の先生なので、普通のことしかできません！」と、説明を受けました。“とんでもない教師だ”と、思う方がいるかもしれませんが、当時の私には「君は普通なんだよ。だから普通に扱うからね」と言われた気がして、とても嬉しかったことを覚えています。　気が付けば「勉強は難しいですか？ 他に見学した人はいますか？」と、自分から質問をしていました。変な話ですが、Ｊ組の生徒は「不登校が当たり前」だったので、とても居心地が良かったのを覚えています。

大分高校を卒業し、大学へ進学。調子に乗って教員免許を取得。ほぼ通学していなかった母校の小学校に教育実習にも行きました。結局教師にはなりませんでしたが、現在は県内の病院で精神保健福祉士（相談員）として働き、気付けば後輩を育成する立場になりました。不登校＝ダメではない。その一歩を踏み出すことができたのが、大分高校のＪ組でした。

ディスレクシアの子どもたちと向き合って…

ディスレクシアの感じ方（イメージ）



　みなさんは「ディスレクシア」という言葉を聞いたことがありますか。整列して記述された文字が、歪んでいるように感じられたり、逆さに並んでいるように感じられたり、時には１文字１文字がバラバラに踊るように配置されているように感じられたりする発達障害です。

　例えば、「音読が苦手な子どもに、家で練習してくるように指示したところ、翌日は上手に読めるようになった。」ということがあったとします。家での練習でスキルアップできた事例と捉えてしまいそうですが、この子にディスレクシアの困りがあればそうとは言い切れません。いつも文字が歪んで読みづらい子が、家で練習したら歪みが無くなるということはありません。では何があったのか…。この子は大好きな先生に認めてもらおうと、長い文章を家で一生懸命暗記してきていたのでした。

　このようなディスレクシアの状態は、おとなが困りをみつけようとしなければ、学力の問題に転嫁されて誤った指導や支援が続いてしまいます。別府市の石垣小学校では、子どもだけでなく家庭との協議の場ももちながら、支援体制の構築を図っています。具体的には、宿題のプリントを大小２種類の文字の大きさで作成したり、具体物をいくつか準備してどれが読みやすく分かりやすいかを子どもとゆっくり相談したりしました。ディスレクシア支援という型にはめるのではなく、よりその子の思いを確かめながらの支援が続いていきました。

　しかし、まだまだ困りを解決できていないところは多く残っていると、１年間担任をしてきた田浦任さんは言います。学校内の１人でも多くの先生が時間をかけながら繋がっていきながら、学校全体で支援体制をつくることが重要だということを力強く伝えてくださいました。

感覚過敏の子どもたちと向き合って…

　私の担任しているクラスのＡさんは、入学式の翌日からも欠席が続いた。この状況は小学校4年生から続いていると入学前の保護者との面談で伺い、入学式にも参加できていなかった。

　まず、問題となったのは「制服」だった。Ｙシャツの生地が「気持ち悪い」といって肌に合わなかった。Ａさんが不登校になってから通院している心療内科の先生からも「敏感な傾向にある」と聞いていたので、「体操服でもいいので、放課後学校に来ないか。」と誘うと、週１～２度は放課後来るようになった。

　また、週に数回は家庭訪問をし、信頼関係づくり・学校のリアルタイムの情報を伝えることを心がけた。進路の面では学校外の支援団体とつなぎ、学級では係活動の工夫や班活動での支援をくり返し、生徒には「その場にいない人への心遣い」の大切さを共通理解するようにした。

　２年時には修学旅行に参加でき、３年生の進路決定も親の献身的な支援を受けとめ、進路を自分で選び進むことができた。

　この間、私たちはＡさんが苦しんだ、Ｙシャツの素材変更を話し合い続けた。その結果、敏感な子どもたちにもやさしい素材のＹシャツを導入することができた。Ａさんに対しての様々な支援や取り組み、そして何よりＡさんの努力を支えるピースの１つとなったと信じている。

《 今年度の「九同教夏期講座（8/17～18：長崎）」で報告予定の上尾茂さん（鶴崎中）の報告より 》

会員の募集について

大分県人教は、「人権という普遍的な文化の創造と共生社会の実現をめざし、人権教育を通じて広く県民の人権意識の高揚及び人権尊重の態度や技能を育成する」という目的のもと、人権教育の研究を行っている団体です。
私たちの身のまわりには、まだまだ解決すべき人権問題がたくさんあります。
だれもが楽しく、安心して暮らせる「人権と共生」の社会を実現していくためにも、ぜひあなたのお力をお貸しください。
より幅広い人たちと連携して事業を行っていくために会員を募集しています。

教材・書籍の販売

さまざまな場での
実践に繋がるものを
刊行・販売しています

子どもたちに確かな未来を
大分の進路保障・人権教育
実践記録集2022

研究成果の発信

県内各地での取り組みを
報告・討議します

大分県人権・部落差別
解消教育研究大会
10月21日・22日

パンフレット等
無償配布

就学支援のための
パンフレット
人権作文集「ひかり」

学校や行政窓口に配付

学びの場づくり

会員対象の
研修会・学習会を開催

自由参加のオープン講座
ＨＰで紹介

人権啓発作品展

（ヒューライツ作品展）

人権テーマにそって募集
写真や作品をとおして
人権啓発の場づくり

啓発DVD等
無償貸出

ＤＶＤ・ビデオに加え
啓発用の展示パネル等
無償で貸し出しています
ＨＰで紹介

ニュース「じんけん」
全会員へ発行

人権教育・保育や
社会教育の取り組みを
県内外の情報とともに
発信します

県人教会員の年会費は2,000円（各地区研究会会費別）です。会員のみなさまには、県人教ニュース「じんけん」（年６回発行）、就学支援のためのパンフレット、人権作文集「ひかり」（職場単位で配付）をお届けします。

賛助会員の募集について

公益社団法人　大分県人権・部落差別解消教育研究協議会

当法人は、人権問題解決について深く学び研究し、その利益を県民全体に還元する目的で、2004 年１月に社団法人として設立され、公益法人制度改革により 2013 年４月には公益社団法人となりました。学校などの授業のみを研究する会ではなく、社会で起こるさまざまな人権問題について考える機会をつくったり資料を配付したりして、人権尊重社会の確立に向けての事業を行っています。2016 年の部落差別解消推進法の施行にともない、部落差別をなくすことを強く打ち出していくために、2020 年に「公益社団法人大分県人権・部落差別解消教育研究協議会」と名称変更しました。

公益社団法人では、より幅広い人たちと連携して事業を行っていくために賛助会員を募集しています。賛助会員とは、「本会の目的に賛同し、その事業を推進するために入会した個人又は団体」（定款第５条）です。年会費は 1,200 円とし、賛助会員のみなさまには県人教ニュース「じんけん」(年６回発行) をお届けします。

21 世紀は「人権の世紀」といわれています。しかし、部落差別をはじめとするさまざまな差別問題はわたしたちの周りに存在し、さらに今までになかった人権問題も新たに生まれてくることも考えられます。

当法人の目的は、「本会は、人権という普遍的な文化の創造と共生社会の実現をめざし、人権教育を通じて広く県民の人権意識の高揚及び人権尊重の態度や技能を育成することを目的とする。」(定款第３条)となっており、大分県人権尊重施策基本方針〔2020 年施行〕や、「大分県人権教育推進計画」〔2021 年３月改訂〕の中にも、県人教とともに大分県における部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消を進めていくことの必要性が述べられています。

誰もが楽しく安心して暮らせる社会、真に豊かな県民の人権文化の創造のために、ぜひみなさまのお力をお貸しください。多くの方々のご入会をお待ちしています。

INFORMATION

ホームページへようこそ

http://kjkoita.jp

『kjkoita』と検索すれば見つかります！

以前のホームページとはデザインが異なりますので
たくさんふれて、なれていただければうれしいです

出張案内
出張文書を公開します

学習資料
刊行物などを掲載します

行事計画
年間の予定を紹介します

大分県人教について
定款や研究課題を紹介します

こちら編集部

以前のホームページには、可能な限り提供できる情報を掲載できるようにしていましたが、事務局運営の事情により規模を縮小して運営しています。
しかしながら、必要な情報を掲載できるよう事務局員一同努力していきますので、みなさまの日々の取り組みの中に組み込んでいただけるとうれしいです。
昨年は、講演の録画配信や学習資料の公開などに加え、県内の他団体による人権学習・啓発活動のご案内も掲載しました。ニュースじんけんとあわせて活用お願いします。

【表紙の写真】 タイトル「みんなで、うれしい！」 大田こども園さん（杵築市）